

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	75	実施計画番号	107
事務事業名	林道の維持管理		事業開始年度 平成23年度
担当課名	土木課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	森林法・道路交通法・道路運送車両法	関連事務事業	林道災害復旧事業
背景や経緯等	森林所有者及び林業関係者等の森林整備や木材の集材・搬出のため、また林野火災時の消火活動などにも利用される林内路網の維持管理が必要とされている。		
事務事業の目的	林業生産環境の整備促進、間伐材等の林産物搬出の効率化を図るため、基幹林道の維持管理を行う。		
実施状況	風水害等による、路肩の欠損・水掘及び倒木などによる通行の支障箇所の復旧に素早く対応し林道の安全な通行を確保している。		

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	220	220	220
	人件費(千円)	7,920	7,920	7,920
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	10	10	10
	活動日数(日)	30	30	30
期間業務職員	人件費(千円)	2,670	2,670	2,670

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
うち一般財源	2,100,297	2,152,685	2,344,000
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	道路補修砕石の敷き均し			
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	-	m ³	130	254	300
	活動指標名②	欠損箇所の補修			
計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
-	箇所	2	3	5	
成果指標	成果指標名①	道路補修砕石の敷き均し			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度
	-	m ³	目標値 120	120	300
			実績値 130	254	
			達成度(%) 108%	212%	
	成果指標名②	欠損箇所の補修			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度
	-	箇所	目標値 5	5	5
		実績値 2	3		
		達成度(%) 40%	60%		

十和田市事務事業評価シート

整理No	75
計画No	107

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 市民・林業業者・財産区等各種団体からの林道補修に関する要望が多い為、本事業は妥当である。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 順調に進んでいる。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 必要最小限の交通の確保を目標とし、コスト縮減に努めている。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 林道の維持補修は道路の現状を踏まえ、市民の要望等を考慮し、公平かつ効率的な道路維持補修を図っている。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
今後の具体的な取組方策と狙う効果